

ダルニー通信

080

2017
SUMMER

特集

02-03

30周年を迎えて理事長秋尾の巻頭言と支援者の声

04-05

カンボジア・ラオスの子どもの状況

06

ラオス少数民族教師養成の卒業生

07

MS&ADコンサート

08

元奨学生の結婚式

09

チャリティマルシェ

10

ACジャパン

12

カンボジア女子寮

30歳になったダルニー奨学金と今後の夢

公益財団法人国際センター 理事長 秋尾晃正



国際センターの活動以前に「南北海道国際交流センター」を立ち上げたのは、日本に帰国した1977年ですから、もう40

年前になります。同センターは、在日留学生が道南の農家等へ民泊、そして労働交流、学校交流等の国際交流を実施しました、日本の地方の国際交流の草分けとなったと自負しています。同時に、国際交流＝知識人という概念を変えた大衆運動にもなりました。それは正に「国」際交流でなく「民」際交流で、校舎こそありませんが、無形の学ぶ場（学園）を形成した運動になりました。

この民際交流の一環で、青函連絡船の甲板で笙を吹くタイの留学生サクダさんと出会いました。それがダルニー奨学金創設のきっかけとなりました。1987年にタイ東北地方の彼の故郷を訪問し、その村で当時小学一年生のダルニーちゃんと出会いました。目線が合うたびに目線をそらした彼女の愛らしさが私の心を惹きつけました。当時、彼女の農村では誰も中学教育を受けていない。全ての子供は人間として生まれ

たからには、教育を受ける権利があると痛感し、サクダと私で2口の奨学金を作り、ダルニーちゃんが中学教育を受けられることを願い、シンボリックにダルニー奨学金と命名しました。それから30年…。

ベルリンの壁が崩壊した時、永久の平和が実現し、地球的課題に取り組む時代が到来したと思いましたが、9・11から時代は変わりました。そして現在、トランプ大統領に象徴される自国優先傾向に憂いを感じます。地球市民という意識は夢のまた夢なののでしょうか。

国債赤字が毎年膨れ上がり続ける日本、そして世界各地で起こるテロのニュース。江戸末期、「太平の眠りを覚ます上喜撰たった4杯で夜も眠れず」と歌われた時代の青年には夢がありました。現在の混沌とした時代の若者にどんな夢が期待できるでしょうか？それこそ「30年後の世界と日本を思うと夜も眠れず」ではないのでしょうか？ネット交流が可能になった今、国家、宗教、民族を超えた対話が容易になりました。教育支援で縁を創造し、その縁で世界の民と民が交流し、「30年後の地球市民による、一つの平和な地球の形成を夢みて、夜も眠れず」。ダルニー運動にかける私の思いです。

1987	1988	1989	1990	1991	1992	1996	1997	2002	2003	2007				
● ダルニーちゃんとの出会い	● 北海道民際交流センター設立	○ 日本民際交流センターに名称を変更	○ 第1回奨学金(タイ)提供	● 研修旅行スタート	○ 朝日新聞に記事が掲載され支援者が大幅に増加	○ 「ダルニー通信」創刊	● タイ事務局(EDF)の財団化	○ 書き損じはがきキャンペーン	● ラオス事務局開設	○ ラオス小学校校舎建設事業がスタート	● 15周年事業で2人の元奨学生が来日	○ カンボジア奨学金のパイロット事業開始	● 20周年事業として3カ国の中学生の交流旅行を実施	● カンボジア奨学金が正規事業に。

設立当初から約30年間支援を継続されてきた ドナーの方にその理由を伺いました

神奈川県・大和市 田村幹夫さん「夫婦でタイに観光旅行に行った直後に奨学金のことを知り、縁を感じて支援を始めました。写真を見ると身近な甥や姪、今は孫とも重なり淡々と続けてきました。奨学金をまとめて割り振っても良いかと聞かれたことがあったと思いますが、1対1のつながりを感じられる今のスタイルが良かったです。立派なものを作ると山があれば谷もあり後が大変ですが、子どもたちの教育を最優先して地に足をつけている現状はいいと思います。定年をむかえ年金生活ですので続けられるうちとは思っています」

北海道・札幌市 S・Mさん「高校生の時、アメリカ・ミシガン州に私費留学しました。ホストファミリーが無償で私を受け入れ、車で国内を案内してくれたり、様々な国の人との交流の機会を提供してくれました。それが本当に嬉しかった。帰国後、その恩返しをしたい、できたら外国の人に役立つ支援をしたいと思っていたところ、新聞でダルニーちゃんの記事を読みました。幸い、夫の収入で生活でき、私の収入は自由に使ってよいと言ってくれたので、薬剤師として得ていた私の収入をずっと奨学金に充てました。教育を受けたら才能を伸ばせる機会ができます。お互い様の気持ちで、これからもできる限り支援を続けたいと思っています」

神奈川県・横須賀市 細野裕さん「新聞の小さな記事を見て支援を始めました。タイに学校が足りないなどの状況を知っていたので、何か支援をしたいと思っていた頃でした。当時は今のような顔写真はなく、直筆で生徒の報告やお金の使途が明確に書かれた報告書でした。以後毎年、報告が丁寧になり、事務所が整備され、奨学金システムが向上していると感じました。情報を発信する力もあり、場所は覚えていませんが、支援者の集まりに顔を出したことがあります。その集まりで、秋尾さんはじめスタッフの方が押し付けではなく淡々と話されている雰囲気印象的でした。これからも初期の熱意を失わないでほしいですね」

千葉県・市川市 S・Yさん「新聞の記事を読んだのがきっかけで始めました。他の団体への支援もしていますが、教育は大事だと思う気持ちで継続しています。途中で支援がタイからラオスに変わった理由は、ラオスのほうが貧しいからです。こちらも裕福ではない中で工面していますが、残念なのは何らかの事情で途中で奨学生が変わるときです。あるときプレゼントセットを正月明けに送ったら、その子は新学期早々に奨学金を受け取り、その後に学校をやめたそうで、プレゼントセットは別の子に送ることになりました」(そうおっしゃりながら、「教育は大事」という気持ちで、毎年3名のご支援を継続してくださっています)

東京都・中野区 M・Nさん「家内がどこからかダルニー奨学金のことを聞いてきて、わずかなお金が役に立つのなら、と思って支援を始めました(奥様も同様にご支援をされています)。30年近く支援が続いた理由を聞かれても特になのですが、1万円(当時)で子どもが学校に通えるなら、無駄遣いをするよりもよいと思って。(支援している子どもの写真が送られてくることが長続きの理由の1つでは、との質問に)写真が来なくても、きっと支援を続けていたと思いますが、あった方がよいでしょうね」

2007 2009	2010	2012	2014	2016
● ラオス校舎建設20校突破 ○ 30万人目の奨学生が来日し、支援者の向井亜紀さんと対面。	● 民際センターと建築家の加藤センターとして法人化 ○ 任意団体だった日本民際交流故立松和平さんも講演	● ラオスに図書箱を提供するラオ・同受賞 ○ 隆久氏が日本建築学校賞を共	● 税制優遇措置が適用される金事業をスタート ○ 25周年にベトナム・ミャンマーライブラリー1000スタート。	○ ACジャパンの広告スタートに移行 ○ 奨学金を全面的に中学生支援公益財団法人に認定

カンボジア・ラオス農村部の子どもたちの

家族・労働・夢

ダルニー奨学金の提供対象となる子どもたちの親のほとんどが農家か日雇い賃金労働者です。農地をもっている面積が小さかったり水が不足しがちだったり、家族が十分食べることができない場合が少なくありません。そのため、子どもたちは中学校就学を諦めるか、中学校に就学しても、放課後や休日に森や川で食べる物を見つけることが仕事になります。直近のユニセフの統計では、カンボジアとラオスの中学就学率は約50%です。

カンボジア：中学1年生



食費を減らすため、両親の家を出ておじいさんの家へ

トエムの両親は自給自足の農家ですが、所有する農地からでは5人家族が十分に食べていける米は得られません。その理由の1つは雨水頼りの農業で、収穫が1年に1回だからです。家族がなんとか生活していくために、農閑期にお父さんが河辺で何か仕事を見つけていました。しかし昨年、ひどい高血圧でもはや働くことができなくなりました。そのため、お母さんが家族のために働いています。お母さんの稼ぎは月約11,000円ですが、お父さんの治療費が毎月4,400円かかります。



トエム。おじいさんの家の前で

こうした家庭事情で、（家庭の食費を減らすため）トエムは家を出ておじいさんのところで暮し始めました。しかし、おじいさんの家は学校から10キロも離れ、しかも、川を渡らなければなりません。そのため、毎朝4時半に起きて自分で朝食をつくり、5時に家を出ます。帰宅するのは夕方4時頃です。お休みの日は森や川で野菜や魚を獲って食べています。トエムの夢はサッカー選手になってワールドカップに出場することです。

カンボジア：中学2年生



17歳で中学2年生のコーエム。将来の夢はエンジニア

お父さんが亡くなって以来、レンガを作る日雇い労働者のお母さんは1人で6人の子どもの面倒を見てきました。お母さんの日給は550円。これでは家族が生活できないため、長男は中学校を中退して働き始めました。また、こうした家族状況から、上から5番目のコーエムは中学校に就学するのが遅くなり、17歳でようやく中学2年生です。

コーエムは学校に行く前と帰宅後、家族の食事作りや掃除、洗濯、皿洗いなどの家事をし、お休みの日には近隣で農作業や家畜の世話などの仕事を見つめます（収入はわずかですが、通常、食費か学費に使われます）。コーエムは理科が好きで、将来の夢はエンジニアになることです。



家の前に立つコーエム

ラオス：小5のライラ 🐤 🐤 🐤 🐤 🐤 🐤 🐤 🐤 🐤 🐤

きょうだいで力を合わせて生活。夢は先生

治療費や薬代もなく、2年前にお母さんが正体不明の病気で死んでしまい、その後、お父さんは育児放棄して家を出て再婚してしまいました。残されたライラや彼女のきょうだいは生活に困りました。それで、家族のために学校を中退した、7人きょうだいの一番上のお兄さん（23歳）が父親代わりに面倒を見ています。

農閑期で仕事（お金）がなくなると、きょうだいで森に入り、食べたり売ったりできる野菜を採集し、動物・昆虫などを捕まえます。そのため、学校を休まなければならないときもあります。

ライラやきょうだいたちは日の出前に起きて家事をします。学校が終わると農作業をしたり、近隣の家事や畑の手伝いをしたりします。一家の収入は1日約200円です。

こんな生活ですが、小5（小学校の最終学年）のライラは勉強熱心で、小学校卒業後も中学校に行って勉強を続けたいと思っています。なぜなら、学校の先生になることがライラの夢だからです。



ライラとお兄さん

2017年度カンボジア・ラオス奨学金、及びベトナム継続分 のご支援の締め切りは7月20日です

2016年度より新規のご支援は中学生のみになり、奨学金は年14,400円です。小学生のご支援（年1万円）は継続の方のみです。ご支援されていた小学生を中学も継続支援する場合、中学支援と記載していただければ、自動的に中学の継続支援となりますが、奨学生が家庭の事情などで中学校に就学しない場合、別の中学1年生のご支援となりますので、予めご了承ください。

少数民族教師養成事業の卒業生からの手紙と支援者からの返事

今年、少数民族教師養成事業の奨学金を通して教師養成短大を卒業した生徒は16名でした。

卒業後、奨学生のお礼のコメントが記された報告書が支援者に届きます。今年、報告書を受け取った支援者のN.Kさんは、支援していた複数の奨学生に返事を書きました。以下が奨学生ケーンからの手紙とN.Kさんの返事です（手紙はN.K ではなく実名で書かれています）。

【奨学生からの手紙】

N.Kお母さん

この手紙を書きながら思わず笑みがこぼれてしまいます。教師養成大学を予定通りに卒業したことをお知らせします。N.Kさんが心を込めて支援して下さいのおかげです。

教師養成大学に通っている間、故郷からとても離れていたために、時々ホームシックになることもありました。でも長期教育実習で子どもたちを教えるに学校へ行った時には、子どもたちの笑顔を見てとても幸せな気持ちになりました。そしてこれからは教師として、自分の知識や学んだことを故郷の子どもたちに伝えることができます。

N.Kさんは、私や私の家族だけでなく、ラオスの国民にとっても恩人です。N.Kさんはずっと心の中にいて、決して忘れることはないでしょう。

最後になりましたが、支援をして下さって本当にありがとうございます。遠く離れていてお会いできないのが残念ですが、私は両親と同じようにN.Kさんの事を尊敬しています。いつか機会があれば、是非私たちを訪ねて来て下さい。N.さんのご健康とお幸せ、ご成功をお祈りしております。

心を込めて ケーン

【N.Kさんからの返事】

卒業生の皆様へ

卒業おめでとうございます。

皆様からの、卒業を知らせる心温まるお便りを頂戴し、私も嬉しい気持ちでいっぱいになり、私からも皆さんにお礼を言わせて頂きたいと思います。経済的に恵まれない状況にもかかわらず、頑張って勉強を続け卒業の日を無事に迎えることができた皆様には、私は心からの祝福と敬意を表します。多くの方は初めて故郷を離れ、初めての1人暮らしでのホームシックやいろいろな御苦労も多かったと推察します。本当にご苦労様でした。

卒業後は故郷で教師としての新しい人生が始まりますが、これからがまさに本番です。今まで皆様を支えてくれた御両親をはじめとする多くの方々への感謝を忘れず、いっそう輝いてゆかれることを、期待しております。

遠い日本から、これからの皆様のご活躍とご健康、皆様の故郷の発展をお祈りしております。

※国際センターのHPに掲載した記事を転載しました。



真ん中がケーン。卒業式で

MS&ADインシュアランスグループ

第22回 バレンタイン・チャリティーコンサート開催

～累計支援人数が500 人を突破～

MS&ADホールディングス 浜 一平



ちに奨学金を贈呈できる運びとなり、累計支援人数は502人、累計寄付金額は1,658万円となりました。ご来場・ご支援いただきましたすべての皆さまに、改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

今回のコンサートには当社グループ各社の社員を中心に構成される3組のバンド（総勢20名）が出演し、当社グループのチアリーディングチーム

「ドルフィンズ」や三井住友海上管弦楽団とのコラボレーションも実現することができ、盛況のうちに幕を閉じることができました。好きな音楽を多くの皆さまと一緒に楽しみながら、未来ある子どもたちを支援できることに、メンバー一同、喜びと誇りを感じております。

来年も多くの皆さまのご来場・ご支援を心からお待ちしております。

去る2月17日、三井住友海上駿河台ビル大ホールにおいて、MS&AD軽音楽部とMS&ADゆにぞんスマイルクラブの共催による「第22回バレンタイン・チャリティーコンサート」を開催いたしました。

1996年に始まりましたこのコンサートも、早いもので第22回を数える歴史あるイベントとなりました。本イベントでは当日のチケットの売上金に、グループ各社の社員からの募金も上乘せし、その全額をダルニー奨学金として寄付させていただいており、前回までに計468名の子どもたちに総額1,498万円の奨学金を支援してまいりました。

今回のコンサートにおきましても多くの皆さまにご来場・ご支援いただき、過去最高となる約160万円を寄付することができました。この寄付金により、新たに34名の子どもた



元奨学生の結婚式に支援者の中野さんが「お父さん」として出席

中野秀俊さんが2001年にはじめて支援したタイの奨学生がヌイでした。以来、高校までの6年間で100回以上の手紙のやりとりをしました。大学は独自に支援を継続し、メールのやりとりや3回のタイ訪問で交流を重ねました。そのヌイが今年3月、タイで結婚。中野さんは結婚式に「お父さん」として出席しました。以下は、結婚式に出席した中野さんから届いた感想です（一部修正）。

今年1月、16年前に私が初めて支援した奨学生、ナムチョック・プイペン（ヌイ）から「結婚するので3月25日の結婚パーティーに是非参加してほしい」と連絡があり、以前より彼女が結婚する際は参加する約束をしていたこともあり、佐久ダルニー連絡会代表の柳沢光一氏とタイに行っていました。

彼女は中学時代から勉強が好きで、私の家族の理解もあり中学～大学まで支援をし、大学卒業後も今日に至るまで16年間互いに連絡をとり合い、彼女は私のことを「お父さん」と呼んでいます。彼女は今、バンコクの短期大学で学校スタッフとして勤務しております。

彼女はすでに実父を亡くしているため、結婚パーティー招待状には両家のご両親名のところに私が彼女の父親として印刷されていました。18時よりパーティー会場入口で、新郎新婦と両家の両親とで招待者をお迎えするのですが、私も彼女の父親として約600名の招待客をお迎え致しました。

セレモニーでは、まず職場の上司や各関係者が新郎新婦の首にお祝いの花輪をかけ、次に新郎の父親が挨拶し、その後、新婦の父親として私があいさつをしました。あいさつ文は事前に



新郎新婦と中野さん(右端)

私が住む市の市役所のタイ語翻訳ボランティア（タイ人）にタイ語に翻訳してもらい、式では彼女が代読しました。彼女が代読する前に、私がカタカナ翻訳したタイ語でしどろもどろしながら自己紹介と彼女との関係、さらに私がタイ語でのあいさつができないので、彼女に代読してもらうことを短く説明しました。そして、いよいよ彼女があいさつ文を代読しましたが、段々涙声になって声を詰まらせ、さらに新郎とご両親も涙していました。それを見た私も涙、涙…。

私はいつも思っているのですが、彼女がどんなに頭が良くてもダルニー奨学金に出会えなかったら、今の幸せな生活は無かったと思います。今回、改めて教育を受けることの大切さを再認識するとともに、彼女の幸せを願い、タイをあとにしました。

※国際センターのHPに掲載した記事を転載しました。



千葉県・八千代市で 「てとてとつながる チャリティマルシェ」開催

2017年4月14日、千葉県・八千代市で「てとてとつながるチャリティマルシェ」が開催されました。チャリティマルシェは、株式会社オカムラホームが開催してきた「かざみどり petit マルシェ」を、ダルニー奨学を多くの方に知っていただき、支援の輪を広げることを目的に開催したものです。

陶板浴アースメイト会場（写真下）では、小物等が販売され、コンサートが開催されました。民際センターは、タイの食品販売と活動の説明を行いました。100円玉を入れる「ダルニープレート募金」に興味関心を抱かれる方が多く、その際にダルニー奨学金について説明をする機会をつくることができました。

八千代市市民ギャラリー会場（写真上）では、各出店者がワークショップを行いました。民際センターはラオスの子どもたちが描いた同級生の絵や写真パネルを展示しましたが、ご来場の方々は興味深く絵や写真パネルを見ていました。

今回のチャリティマルシェの収益金は、ベトナムの子どもへダルニー奨学金として寄付されます。



元奨学生が手伝う、タイの中学校でのバレーボール支援活動

2000年からダルニー奨学金でタイの中学生を支援している畑さんは、日本体育協会公認の指導者。2010年からは毎年、タイ東北地方（イサーン）の中学校を訪れ、バレーボールを届け、バレーボール教室を開催しています。これまで贈呈したバレーボールは4,800個、ユニフォームは300枚。以前に畑さんが支援した元奨学生フォンがこの活動を手伝っています。



【畑さんのコメント】

後列右から3番目が畑さん。左下は元奨学生のフォン。

「タイ・イサーン地方を訪れるようになってもう17年の月日が流れました。その間に21名の中学生たちをサポートしてきました。2010年からは毎年、イサーンの中学校を訪問してバレーボールとユニフォームを届け、そのボールを使ってバレーボール教室の開催と活動の幅を広げてきました。ボールは自分でもって行ったり、船便で郵送したり。

4番目に支援した元奨学生のフォンは今年で28歳。一児の母になり、サコーナコン県で幸せに暮らしています。ここ1～2年は、私のバレーボール提供活動や奨学生訪問を手伝ってくれます。育ての親？としては嬉しいかぎりです。

※民際センターのHPに掲載した記事を転載しました。



9ヶ月間のACジャパンの広告効果 新規支援者は約7倍増

昨年7月、ACジャパンを通じて、テレビ、ラジオ、新聞、電車の中吊等でダルニー奨学金の広告がスタートしました。前号ではスタートした7月と8月の2か月間の問い合わせ数を以下の通りにお伝えしました。テレビ：16件、ラジオ：17件、新聞：35件、新聞：35件、車内中吊：6件、その他：15件。

それから半年、スタートしてから9ヶ月たった3月末現在の数字は以下のようになっています。テレビ：301件、ラジオ：66件、新聞：274件、中吊：64件、その他：161件で計866件。そのうち、お申し込みいただいた方が168件です。一方、資料請求の有無に関わらず、新規奨学生支援をお申し込みされた方が623人で、昨年度93人を大幅に上回っています。資料請求をせずに直接支援のお申し込みをされた方が多いと言えます。また、新規支援者の方がお申し込みをされる際の特徴は、電話によるお問い合わせよりもホームページを通じて資料請求



をされる方が圧倒的に多いことと、1年間支援ではなく卒業まで支援される方が大多数であることです。さらに、企業のご支援よりも個人のご支援が圧倒的に多いことです。

ACジャパンの広告は6月で終わりですが、その後の支援者を募る活動に、従来以上に皆様のご協力をぜひよろしくお願いします。

■ ラオスも伝える ■

日本ラオス合作映画「ラオス 竜の奇跡」(原題：サーイナムライ) プロデューサーの森卓です。映画は無事に6月下旬から東京有楽町スバル座を皮切りに順次全国ロードショーとなりました。全国での劇場も順次決定していきます。それに合わせたラオスイベントも企画中です(映画・各種イベント詳細はウェブサイト「ラオスタ」(www.laosta.asia)、映画公式サイト(www.say-namlai.movie)にて)

これらの活動を進める上で、いつも自分に問いかけていることがあります。「なぜ日本人はラオスを知らなければならないのか」ということです。「しなければならない」というと、とても強制的な感じがしますが、ラオスを知ってもらいたいと映画を作り、イベントを仕掛けても、私の自己満足にしか過ぎません。しかし、そこまで突き詰めてやっと日本人である私にとっての「ラオス」が見えてきたような気がします。緩やかに流れる風景に幸せな笑顔を浮かべているラオスの人々と自分との関係。その想いを持って日本で暮らし東京で活動すること。私にとって、日本にとってのラオスとは。これらの活動を通して、自分自身が学ばせて頂きながら、皆様と一緒に考えることができたら幸いです。森卓：ラオス在住15年の後、映画完成とともに帰国。ラオスPR活動を行う。

事務局活用リスト

事務局ではさまざまな資料やサービスを用意して、ドナーの皆様の
お問い合わせやご要望にお応えしています。

※ご利用につきましては、以下の要領でご連絡願います。

地域で奨学金や図書セットを広める活動をしたい

- ①書き損じハガキ・未使用テレカの収集
- ②使用済みインクカートリッジの収集
- ③パンフレットまたはリーフレットの設置
- ④不要な本を集めてブックオフに送る
- ⑤募金箱を設置したい

お気軽にお電話またはメールでお問い合わせください。折り返し資料
などをお送りします。また、ホームページでも紹介しておりますので
是非ご覧ください。

奨学生や現地のビデオを見たい

DVDは現地情報満載の広報ビデオ(13分)。パネルを貸し出すこともできます。送料は負担願います。

個人でタイを訪問し、奨学生に会いたい

82円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします(3~5月と10月、学校はお休みのため訪問できません)。

タイの奨学生と文通したい

- ①手紙の翻訳
- ②タイの切手購入

- ①：タイ語→日本語に翻訳します。手紙の原本と80円切手4枚を同封して送ってください。
- ②：タイ切手セット(12回分1000円)の代金は郵便定額小為替が現金でお願いします。
82円切手を貼った返信用の封筒も同封してください。

※奨学生の氏名をカタカナで読みたい方は、電話、メール、ファックスでお問い合わせ下さい。

民際事務局でボランティアをしたい

PC入力、DTP経験者、事務作業など。電話またはメールでお問い合わせください。

奨学金の説明を聞きたい

事務局では随時無料説明会を行っています。参加希望の方は必ずご予約ください。

タイ・ラオスの奨学生にプレゼントしたい

82円切手を貼った返信用の封筒をお送りください(メール可)。折り返し、資料をお送りします。

毎年忘れずに送金したい

お申し込みいただければ、自動振込用紙(ゆうちょ銀行)を無料で送付します(タイのみ)。

編集後記

タイ人やラオス人はタンブンといって、毎日、お坊さんに食べ物などの施しをして徳を積みます。「生まれ変わったら、来世はもっと良い人生が送れますように」と祈りながら。こうした思想をもっているから、貧しくても、不幸でも、来世こそと今を何とか忍耐することができるのかもしれません。タイ東北地方の村で、両親に捨てられ、寝たきりの祖父や祖母の介護をしながら中学校に通う奨学生にしばしば出会いましたが、こんな過酷な人生を送っているが、学校では他の生徒となんら変わらず、同級生と楽しそうにおしゃべりをしていました。彼らは今世を諦め、想いは来世にあるのでしょうか？話は変わりますが、タイ語やラオス語の動詞に過去形がありません。英語に例えれば、I went to school yesterdayとは言わず、I go to school yesterdayといい、動詞にかかる副詞で時制を判断します。人間の動作を表す動詞が変化しないことと、人間が姿を変えて何度も今世に現れる人生観(輪廻思想)と何か関係があるのでしょうか。奨学生のお祈りする顔や諦観した顔を見ると、そんなことを考えさせられます。(富)



ダルニー通信 第80号 2017年6月1日発行 発行人：秋尾晃正
公益財団法人民際センター 〒162-0801 東京都新宿区山吹町337 江戸川橋東誠ビル5F
TEL：03-6457-5782 FAX：03-6457-5783
Eメール：info@minsai.org ホームページ：http://www.minsai.org/
振替口座：00160-7-664928
表紙：ラオス 撮影：渡部 明浩



カンボジア高校
女子寮の建設の
ご報告

新しい寮での
放課後の様子

タケオ県の高校に女子寮が建ちました

「ダルニー通信77号」でタケオ県南部コーアンデット郡の高校に女子寮建設のお願いをしましたが、1棟分の寄付が集まり、昨年10月28日に完成しました。寮には25人の女子生徒が生活していますが、そのうち2名に喜びの声を聞いてみました。



1人目の女性生徒は「去年まで、竹でできた小屋に5人のクラスメートと一緒に住んでいました。お金を出し合って建てましたが、蛇が出たり、雨が降ると汚れて眠ることができなかつたり。今は勉強に集中できます」。もう一人の女子生徒は「小屋に住むのは快適ではありませんでした。穴だらけで屋根や壁から雨漏りがして、眠ることができず、不安でホームシックになり、勉強をあきらめようかと思いました。この新しい寮で暮らすことができとても幸せです。卒業まで、この寮で過ごして勉強もガンバリます。貧しいカンボジアの生徒のためにこの建物を寄付してくださった日本の支援者にふかく感謝しています」。

カンボジア中等教育の低い就学率と高い中退率の背景には、学校が遠いことや移動手段がないことなどがあります。民際センターでは、中等教育の就学率向上のため、自転車の提供と女子寮建設を支援しています。カンボジア女子寮の費用は、建設約180万円、その他に台所約50万円、トイレ約40万円です。ご支援を検討されている方はご連絡ください。

Thank you
for your donation
(寄付をありがとう)



井戸は
寮からそれほど
離れていない

